

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)																							
ET46J024		スクールカウンセリング特論(教育分野に関する理論と支援の展開)(Special Seminar in School Counseling(Support Theory and Applications in Educational Area))					臨床心理学																							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																								
選択	2	1	大学院教育学研究科			氏名 木谷 秀勝 E-mail 内線																								
授業の概要	今回の集中講義では、通常学級に在籍する神経発達障害児を対象として、心理アセスメントの取り方、授業支援の進め方、教師とのコラボレーションの方法、保護者との面接の進め方などを通して、学校現場に即した心理臨床的アプローチについて講義を進める。																													
具体的な到達目標											DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
目標1 スクールカウンセラーとして必要な学校現場とのコラボレーションの進め方																														
目標2 支援を必要とする神経発達障害児の行動特徴と適切な心理アセスメントの活用方法																														
目標3																														
目標4																														
目標5																														
目標6																														
目標7																														
目標8																														
目標9																														
目標10																														
授業の内容																														
1 神経発達障害(SLD、ADHD、自閉症スペクトラム障害)に関する基礎的概念。																														
2 学童期の神経発達障害児の理解と対応。																														
3 思春期の神経発達障害児の理解と対応。																														
4 青年期の神経発達障害児の理解と対応。																														
5 事例検討及び質疑応答。																														
6 スクールカウンセリングにおける心理アセスメントの活用:WISC-。																														
7 スクールカウンセリングにおける心理アセスメントの活用:臨床描画法。																														
8 心理アセスメントを活用した事例の紹介:学童期。																														
9 心理アセスメントを活用した事例の紹介:思春期。																														
10 事例検討及び質疑応答。																														
11 学校が抱える二次障害(不登校、抑うつ、学級崩壊、反社会的行動など)への基本的理解と対応。																														
12 学級や学校への心理的介入の方法。																														
13 家族との連携の進め方。																														
14 医療機関との連携の進め方。																														
15 事例検討及び質疑応答																														
ラ ア イ ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認	講義中に提示するさまざまな神経発達障害の事例に対して、積極的に質問や意見を言語化する作業を行ってもらえるように配慮する。										工 夫 そ の 他 の																		
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	神経発達障害や心理検査(WISC- や臨床描画法)等に関する基本的概念について、これまでに修得した内容を予習する(30h)。																												
	事後学修	講義で習得した神経発達障害や心理検査に関わる新たな知見を基にしながら、平素の心理臨床活動の進め方について見直しの作業を行う(15h)。																												
教科書	講義において、適宜配布資料を用意する。																													
参考書	「子どもの発達支援と心理アセスメント-自閉症スペクトラムの『心の世界』を理解する」木谷秀勝著(2013年)。金子書房。 「発達障害の『本当の理解』とは-医学、心理、教育、当事者、それぞれの視点」市川宏伸他著(2014年)。金子書房。																													
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10																		
	講義における積極性	30%																												
	レポート課題	70%																												
注意事項	講義中の積極的発言を期待する。																													
備考	受講生が実際に経験している事例やWISC- や臨床描画があれば、事例検討も含めて行うので、申し出て下さい。																													
リンク	URL																													